

大正紡績

# べんがら染め糸 「古色の美」販売

## 天然の色シリーズ拡充

大正紡績は日本の伝統的染色技法であるべんがら（紅柄）染めの糸「古色の美」を販売する。大

阪府羽曳野市在住のべんがら職人、中島留彦氏と共同で紡績糸を開発した

もので、衣料、ホームテキスタイル用途などを見込んでいます。

べんがらは防虫防腐効果もあり、日本家屋の中や外に塗られていた。べんがら染りの「手織織」

の中島氏は、べんがらで綿を染める方法を研究、べんがらが繊維の中に入り込むほど細かくつなぎ、バインダー（糊）にカゼインを使用、しなやかな風合いにするため糸

種油を加える技法を開発した。洗濯してもほほ色落ちすることはない。綿、絹、麻、和紙素材などにも染色は可能として

いる。

また、酸化チタンや松煙を粉体の状態で混ぜ、紅色だけでなく西、琥珀、蘇芳など12色を出せ

るようにした。大正紡績では来年、中島氏が開発した12色の紅柄「古色の美」のうち、グレー系の古色と藍で染めた綿を5〜20%、生成りの綿と混ぜ合わせ独特の色を表現した紡績糸を販売する。7〜40番手で、すでに有力ブランドの採用も決まっている。今後、色数を増やすほか、混紡する原料素材も絹、麻、竹繊維やカシミヤ、キャメルなどに広げる意向だ。

同社は茶、緑などの有色オーガニックコットンや、フランス、インドネシアなど世界各地の土に育る彩土（ハニ）染め、オリーフ、ブドウなどの植物染料による「花染め」の糸を販売している。今回、これにベんがら染めを加え、天然の色シリーズを拡充する。